

「職場と仕事を奪う」反動方針

日刊 動労千葉

84. 7. 2

No. 1679

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

動労本部 第40回 全国大会方針を弾劾する その2

動労「本部」革マルは、第40回定期全国大会において「国鉄を国鉄として維持するために」と称し、「労働強化」を前提とした「労使会議運動の全国的展開」という、反階級の方針を決定しようとしています。

動労組合員を尖兵にした、国鉄労働運動を「産業報国会化」にひきづりこもうとする反動方針を粉砕し、革マル反動分子の追放・一掃を実現しようではありませんか。

闘わないための「要求運動」

国鉄の「分割・民営化」、「余剰人員対策」と称し生首切りを狙う「一時帰休制」の導入、さらに「60・3」大合理化など、政府・自民党、国鉄当局の「国鉄二〇万人台体制」にむけた労働運動破壊攻撃はより激化しようとしています。

動労「本部」方針は、こうした攻撃を「国家意志としての未曾有の国鉄再建」労働破壊攻撃」と規定し、「闘ってもかてない」「闘うべきではない」としたうえで、「職場と仕事を生活を守る」ために「国鉄を守ろう」「もっと働こう」と主張しています。

なんと当局に「労働強化」を提案し、「労使会議」「国鉄再建フォーラム」による「要求運動」の全国的展開を方針化し、この反階級の方針のもとに動労組合員を動員しようとしているのです。

あまりに反労働者的な「動労提言」

動労「本部」革マルが要求する「労働強化」とはいかなるものでしょうか。

「動労道本」は四月十三日、「ローカル線を守り発展させるための私たちの考え」なるものを発表し、「労働強化の要求」と「自民党や経営者協会等との共闘」方針をうちだしました。

これをうけて、五月十日の動労「本部」第一二三回臨時中央委員会は、この「道本提言」の全国的拡大と「新たな会議」「労使会議」「国鉄再建フォーラム」による要求運動を決定しました。

すなわち、「ローカル線の廃止を阻止し、職場と仕事を生活を守る」に、ワンマンのレールバス化、休み時間を返上し、乗務員による車両清掃から切符切りまでの労働強化もいとわず、自民党、経済団体と共闘する運動さへ展開しようというものです。車掌や駅員の「職場と仕事」がどうなろうと、

自分達（乗務員）の「職場と仕事」さえ残ればいいという、実に反労働者的方針なのです。

「方針」では「動労の提言」が細田運輸大臣や仁杉国鉄総裁にほめられたと感激し、「労使会議」の提唱によって、この「労働強化方針」を全国に拡大しようとしているのです。

「職場と仕事を奪う」動労方針

動労「本部」革マルは、当局の「過員」攻撃について、「国労が『過員』問題を『社会問題化』したから国鉄再建監理委員会や政府・自民党などの焦点になった」と主張し、「過員」の責任を国労に転嫁しています。

しかし、「過員」が動労「本部」革マルの59・2や動乗勤の裏切りによるものであり、「職場と仕事を生活を守る」方針が「職場と仕事を奪う」方針であることは、いまやすべての国鉄労働者の前に明らかになっています。

ローカル線の廃止どころか、「60・3」では機関区さえ廃止されようとしている現実の前に、動労「本部」組合員の不安と怒りはうずまいています。そして「働こう運動」「職場と仕事を生活を守る」方針の大破産をつきつけられた革マル反動分子は、大会直前に組合員の一割を動員する中央行動を強制し、「新たな会議」「国鉄再建フォーラム」なる目新しい「要求運動」で組合員の目をたぶらかし、自民党や国鉄当局に「経営参加」を認めてもらおうとしています。

組合員を裏切り、国鉄労働運動解体の道をつき進む反階級の方針を粉砕し、いまこそ動労「本部」革マルの追放・一掃、動労大改革をかちとらねばなりません。

すべての国鉄労働者のみなさん、とりわけ動労「本部」の組合員のみなさん。勇気をもってともに決起しようではありませんか。